

淀川ワンドに生息する在来生物の保全活動

小林 永人・三橋 雅子・田中 耕司(大阪工業大学), 鶴田 哲也(大阪産業大学)
山本 義彦・丸山 勇氣(大阪府立環境農林水産総合研究所)
河合典彦・綾史郎(淀川水系イタセンパラ研究会), 高田昌彦(琵琶湖を戻す会)

1. 背景

大阪の淀川下流域のワンド(図1)には、イタセンパラ(図2)などの希少な在来動植物が生息。

外来生物による影響や人為的な水位調整などの影響から在来生物の生息状況は危機的な状況。

2. 活動

2011年に淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(イタセンネット)を結成し、イタセンパラが放流された城北ワンドと、庭窪ワンドで定期的に地引網調査を実施(図3)。外来魚は駆除し、在来魚は計測のうえ、放流。 外来魚釣り大会の実施等の活動も。 図1右下

3. 結果

2012年から2023年までに城北ワンドで採集された魚類の内わけ(図4)の通り、2012年は70%以上が外来魚だったが、2023年は30%程度に抑えられた。

生物の種多様性の指標であるシャノン多様度指数と外来魚率を比較すると、外来魚率が低いほどシャノン指数は高かった(図5)。

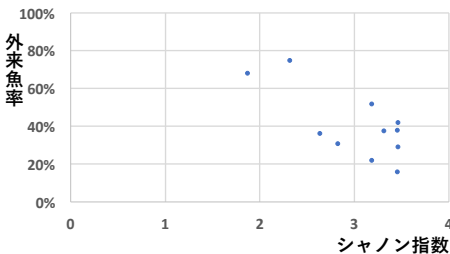


図5. 2012年~2022年の各年のシャノン多様度指数と、外来魚率の比較

4. まとめ

外来魚率を下げる駆除活動は在来生物の多様性保全につながる。

イタセンパラの生息は2023年に確認されなかったが、今後も継続して駆除活動を続け、淀川の在来生物の保全に努めたい。 近隣小学校で観察会を実施している。市民が淀川環境や生物の希少さを知る機会を作っていきたい。



図1. 淀川下流活動域のワンド 国土地理院



図3. 上, 地引網設置, 右上, 地引網上げ, 下, 仕分け計測作業, 右下, 駆除された外来魚類 (オオクチバス, ブルーギル)

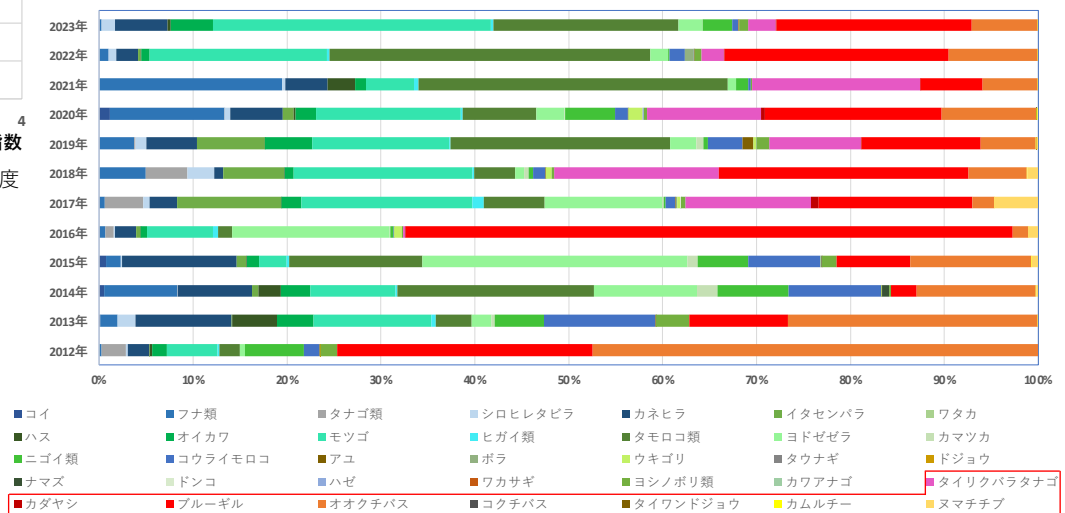


図4. 城北ワンドで採集された魚類個体数の内わけ, 暖色(赤で囲んだ凡例)が外来魚

